

「TEACCH Autism Program について」

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 准教授 諏訪利明先生

講演要旨

TEACCHは、アメリカ、ノースカロライナ州の州立機関であり、個々の自閉症者とその家族にさまざまなサービスを提供するよう、州法で定められた機関である。自閉症の診断・評価、家族への情報提供、さらに本人の成長に伴い学校や地域へのコンサルテーションなどを行う上で、自閉症の当事者を中心に、彼らの独特なニーズが認識され、そのニーズに合わせて、彼らの生涯を通して一貫してサポートする姿勢が貫かれている。

TEACCHは、故エリック・ショプラー（Eric Shopler）博士によって1960年代に開始された研究をもとに、1972年に州法に定められ、その後は第2代部長であるゲーリー・メジボフ（Gary Mesibov）博士のリーダーシップの下、実践的に発展し続けてきた。

しかし、アメリカ CDC の調査結果では、この42年の間に、自閉症の出現率は10,000人に3～4人というレベルから、今や68人に1人といわれるレベルにまで変化している。自閉症の内訳も、知的障害を伴わない高機能群の人たちの診断が比率的に増加している。さらに現在では自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（DSM-5）という新たな障害概念へと変化してきている。自閉症に伴うこうした変化に合わせて、TEACCHも変化を余儀なくされている。2012年に新部長としてローラ・クリンガー（Laura Klinger）博士が就任し、名称も TEACCH Autism Program と変わった。これは大学の一部署としての Division TEACCH から、州全体の施策制度を意味する Program へ、という意味である。

当大学は、日本で最初に TEACCH と学術提携を結んだ大学であるが、新生 TEACCH Autism Program の考えを整理することで、彼らの「自閉症の文化から始まる」という考え方から学ぶことはまだまだ非常に多いと思われた。

TEACCH Autism Program TEACCH自閉症プログラム

川崎医療福祉大学
医療福祉学部 医療福祉学科
准教授 諏訪利明

TEACCHとは？ (旧)

- **Treatment and :** 「治療」と訳されることが多いが、その意味は「治す」ということではない。「治す」ならセラピー。しかし自閉症は治らない。ではどうするか？治すのではなくて、彼らの「良さを引き出す」ことがポイントになる。
- **Education of :** 「教育」であるが、それは「通常教育」ではない。みんなと同じようになることを望んでの教育とも違う。自閉症の特性に合った、個々の目標を掲げた「特殊教育」であり、彼らの学びを最大限引き出す教育である。
- **Autistic and related :** 自閉症および関連した
- **Communication handicapped :** コミュニケーションにハンディキャップをもつ、要するに自閉症の
- **Children :** 子どもたちのための、というがその支援の仕組みは子ども対象だけにとどまらず、既に成人を含む一貫したサービスとなっておりノースカロライナ州規模で展開されている。

ノースカロライナ州って？

TEACCHの各地域センターのNC州内分担区域

1972年にNC州の州立機関として設立された
(支援提供活動開始は1968年から)

- ノースカロライナ大学Chapel Hillに本部および研究センターがある
- 州内に7つの外来者のための地域センターがある
- ノースカロライナ州Pittsboroに成人のための居住施設 (CLLC)がある

TEACCH Autism Program

<p>診療サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 診断的評価 • 介入サービス 早期介入 個別カウンセリング 介入グループ (対人関係・不安) 支援つき雇用 サポートグループ • 機関コンサルテーション 	<p>専門家研修および地域保健教育センター (AHEC) との共同</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学生インターンシップ • 教育者のための5デイトレーニングワークショップ • 年次カンファレンス • 連続講義
---	--

TEACCHIはNC州の州立機関であり、個々の自閉症者とその家族にサービスを提供するよう、これも州法で定められている

- 自閉症の人たちの独特なニーズを認識する
- 故エリック・ショブラー博士によって、1960年代に開始された
- 第2代部長ゲアリー・メジボフ博士のリーダーシップの下、発展し続けてきた
- 現在の部長はローラ・クリンガー博士である

エリック・ショブラー

(アメリカ)

TEACCHの創始者

ベッテルハイムの教えには納得ができず、独自に研究を重ねた

1971年 自閉症の原因は親の精神病理ではなく、本人の脳の障害である、と発表

自由な場面の精神療法よりも、構造化された場面での教育がよい結果をもたらす

親はなんら思考障害のある人たちではない

→精神分析的考え方のアンチテーゼとしてスタート



ゲリー・メジボフ

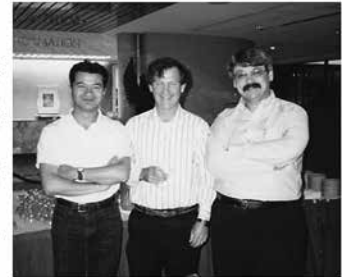
(アメリカ)

TEACCHの2代目部長

主に成人期の自閉症の支援に尽力し、幼児期から成人期に至るまでの

一貫した支援の必要性を伝えた。

地域における支援の可能性を探った。



ローラ・クリンガー

(アメリカ)

TEACCHの3代目部長

Division TEACCHから TEACCH Autism Programへ

自閉症療育における TEACCHのエビデンスをさらに研究

次の40年にむけて、というこで、TEACCHのHPでメッセージを発信している。

TEACCHの誤解を広げないために、公認指導者制度が開始された



ASDの疾病率の変化

- TEACCHが活動を始めた1972年には、ASDの比率は2500人に1人
- それから40年が経ち、現在では68人に1人 (2014年CDC:アメリカ疾病管理センターの調べによる)



→自閉症と診断される人が爆発的に増えている現状?

TEACCHの使命 (声明文)

- ノースカロライナ大学チャペルヒル校 TEACCH自閉症プログラム (TEACCH Autism Program)は、他の模範となるべき、地域を基盤としたサービスや、トレーニングプログラムを創造し、さらに発展させ、自閉症スペクトラム (ASD) をもつ一人ひとりの個人とその家族の生活の質を高めるための研究を行う

TEACCHの展望 (声明文)

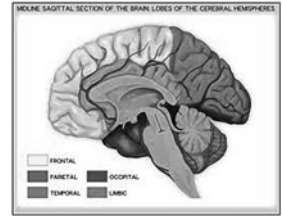
- 自閉症スペクトラム (ASD) をもつ一人ひとりの人とその家族のための、地域を基盤にした介入方法をさらに発展させ、洗練させ、普及させていく、世界的なリーダーであることである。

TEACCHのコアヴァリュー (核となる価値)

- **Teaching** : 我々は、革新的な教育や教授法、および実際のモデルのデモンストレーションを通して、ASDについての知識をシェアし、他者のスキルレベルを高めていく。
- **Expanding** : 我々は、ASDの本人とその家族のために、最も質の高い、確かな根拠に基づいたサービスを提供できるように、自分たちの知識はもちろん、他者の知識を広げることに全力を尽くす。
- **Appreciating** : 我々は、ASDの人とその家族を理解し、その真価を認める。
- **Collaborating &**
- **Cooperating** : 我々は、同僚やASDの本人、そしてその家族、またより大きいコミュニティの人たちと交流する時には、協働と協力の精神を体現していく。
- **Holistic** : 我々は、その人の全人格と関連するシステムに、生涯にわたり注目していくことの重要性を強調していく。

TEACCHの原理

- 自閉症は、神経生理学的障がいである。
- 自閉症の人たちの良さを引き出すために、**structure TEACCHing intervention** (ストラクチャーティーチング介入法) を用いる。



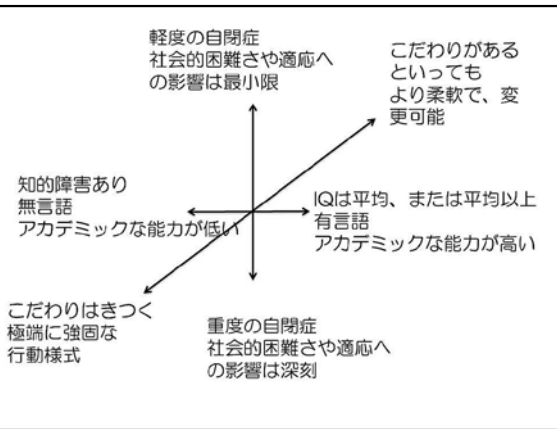
TEACCHの原理

- 自閉症の人たちを支援するために、彼らの世界の理解の仕方や経験 (The Culture of Autism) を学び、我々の世界と結ぶ架け橋を創造しなければならない
- スキルを教えること (弱点に向き合う) と「自閉症フレンドリー」な世界 (彼らが学びやすい環境) を作り出すことの両方を行う
- 一人ひとりに合わせる
- 親と専門家は連携して活動する

現在までの方法論の統合

まさに正しいやり方を見つけることに焦点をおくというよりも

- どの介入がどういうタイプの子どもたちにとって有益なのか、
- どの介入がどのような目標を目指しているのか、ということ問い続ける



TEACCHの中心にあるもの

1. 家族との協働
2. 自閉症の人の生涯にわたる支援
 - 幼児期から成人期にわたる一貫した支援
3. 自閉症の人全体にむけての支援
 - 生活の質を高める
 - 地域で自立してすごせる力を高める
 - 個々の自閉症の人のユニークさを大切に
4. ストラクチャーティーチング

まとめ

- 昨年度10月より、川崎医大病院リハビリテーション科で、家族や地域に対する支援の一つとしてTEACCHセッションが施行的に開始された。
- 2005年に元特任教授であった佐々木正美氏を中心に始まった本大学TEACCH部の流れも、この4月から川崎医療福祉大学社会連携センターTEACCH Autism Programとしてスタート。今までの関係を生かしつつ、新生ノースカロライナTEACCH Autism Programとの関係もまさに新しく始まったばかりといえる。